

<論文>

モンゴル語の形容詞の「程度」を表す範疇 Some “degree” expressions of Mongolian adjectives¹

山田 洋平
Yohei Yamada

東京外国語大学世界言語社会教育センター
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: モンゴル語の形容詞には当該の語が表す意味の程度を弱める「弱程度」や強める「強程度」といった形態的操作がある。本稿ではこれらの表現が形容詞の形態的特徴を決定づけるものであるか否かを明らかにするべく、コーパスによりそれぞれの語形がどれほど使用されるのかを検証した。結果として「弱程度」「強程度」といった表現は良し悪しなどの価値判断に係る語や感情を表す語などに用いられにくい一方、色彩や物理的な特性を表す語には用いられやすいなどの偏りがあることが明らかになった。こうした偏りは「弱程度」に含まれる3つの形式の間で共通する部分もあれば、共通性が見いだせない部分もある。さらに、「弱程度」と「強程度」という用語上、一見矛盾するような両表現が同時に使用される例があることを示した。この他、本稿における調査を通じて形容詞的な語のリストに追加及び修正を施した。

Abstract: Mongolian adjectives have two types of morphological operation: “strong degree” and “weak degree,” which strengthen or weaken the meaning of a word. This paper examined the frequency of each word form in corpora to clarify whether these expressions could determine the morphological characteristics of adjectives. The results showed that “degree” expressions were less likely to be used with words of “value” and “emotion” semantic types but more likely with words of “color” and “physical characteristics” semantic types. Some of these expression tendencies are shared by the three forms of “weak degree,” whereas others are not. Furthermore, we demonstrated that “weak degree” and “strong degree” can be used concurrently even when the terminology of the words seems contradictory. Besides, other additions and corrections to the list of adjectival words were made as result of the research conducted in this paper.

キーワード: モンゴル語, 形容詞, 級, 部分重複, コーパス

Keywords: Mongolian, adjective, degree, alliterative reduplication, corpus



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 和文タイトルにおける「程度」は、2.1. で述べるように形容詞の「比較の範疇」の下位範疇として用いる用語であり、引用元の漢語による用語「程度」を直訳的に日本語に置き換えたものである。英文タイトルでは引用符付きの“degree”という訳語を用いた。これは「程度」という言葉を直訳するものとして適切だと考えたからだが、典型的な「級」の範疇とは異なるものである点に注意されたい。

1. はじめに

清格尔泰 (1991: 184) によると、モンゴル語²の形容詞には、「弱程度」「強程度」といった文法範疇があるという。本稿では、こうした「弱程度」「強程度」と呼ばれる表現が、形容詞という語類を定義するような屈折範疇であるのか否かを検討する。筆者は山田 (2022) において、この弱程度に含まれる接辞 *-xAn* の使われ方についてコーパスを用いて検討し、これが付される語は意味的に偏りがあるということ論じた。本稿においても形式のみに注目して調査し、結論として弱程度や強程度が使用される語は意味的に偏りがあり、形容詞なる語類を定義する決定的な根拠とはならないことを述べる。

以下では、2. において関係する先行研究を取り上げ、モンゴル語における「弱程度」「強程度」とは如何なるものかを示し、その問題点を指摘する。3. では本稿における研究方法を示し、4. でその調査結果を提示、分析する。5. で本論をまとめ、今後の課題を述べる。

2. 先行研究

2.1. モンゴル語の比較の範疇

清格尔泰 (1991: 186) はモンゴル語の性質形容詞について、一般に比較の範疇を具有するとしている。モンゴル語の性質形容詞とは、事物の性質、数量、形体、色彩を表すものや、派生形容詞のうち「形容詞化の程度が高く、形容詞としての特徴が強いもの」を指すという (ibid. 183)。比較の範疇としては、ほかの事物と較べることに着眼する比較級と最上級、形容詞それ自体の程度の弱強を表す弱程度と強程度があり、後者についても間接的には比較の意味が含まれる、と説明される (ibid. 186)。その上で清格尔泰 (1991: 187) は次ページの表 1 を示している。

表 1 の内容について清格尔泰 (1991) は上述の説明の他は特に詳しい説明をしていない。清格尔泰 (1991) の挙げる例に付された訳語などから察するに、「弱程度」「強程度」といった用語の意図するところは当該の語で形容される程度の意味を弱める (例: 「大きい」→「少し大きい」)・意味を強める (例: 「大きい」→「とても大きい」) ことにあるのであろう。

表中の一般程度/原級とは、形容詞的な語がとくに接辞や修飾成分などを伴うことなく使用されることを示しているものと思われる。本稿ではこうした形容詞的な語そのものの語形については考察の対象としない。

比較級・最上級は形容詞の屈折範疇の典型ともいえるべき表現であるが、モンゴル語においてこれらの表現は少なくとも形容詞の形態論とは言い難いものである。比較級は形容詞そのものに形態的な操作は行わず、「比較の対象や規準を奪格 (起点となる場所や時間などを表す、「～から」) で表す」ということが示されている。最上級もやはり形容詞そのものには形態的な操作を行わず、修飾成分を加えることで表すことが示されている³。

² モンゴル語はモンゴル国や中国内モンゴル自治区などに分布する膠着型・接尾辞型の形態論を有する言語である。本稿ではコーパスの都合上モンゴル国で使用される書き言葉を対象として調査を行ったが、本稿で検討する清格尔泰 (1991) の分析は内モンゴル地域で使用されている書き言葉を対象としたものであると考えられる。ここではこれらに有意な地域差がないと仮定して議論を進める。本稿におけるモンゴル語の表記は山田 (2022) に従い、内モンゴルで使用される書き言葉についても、とくに断りの無い限り便宜上モンゴル国で使用される書き言葉に対応させて示す。

³ とくに最上級の②については同一の形容詞語幹が繰り返されていることから、一種の重複と見ることも可能である。ここでは①②いずれの表現も修飾成分が格接辞を含む (① *xamg-ijn* {普遍-GEN}, *tujl-yn* {極-GEN}) ことなどから、修飾成分は独立した語であると見做し、形容詞の語の内部の形態論的な操作であるとは考えない。

表 1. 形容詞の比較の範疇

程度と級	構成	例 (該当箇所には下線)
一般程度／原級	形容詞語幹 ⁴ 形	ulaan 「赤い」, cagaan 「白い」, sajn 「良い」, öndör 「高い」
弱程度	①形容詞語幹-wtAr ②形容詞語幹-xAn	ulaa-wtar 「比較的赤い」, cagaa-xan 「比較的白い」, ixee-xen 「比較的大きい」
強程度	①形容詞語幹の語頭 1 モーラ目の重複-w 形容詞語幹形 ②程度副詞 maš / tun 形容詞語幹形	uw ulaan 「真っ赤」, xaw xaluun 「とても熱い」, maš sajn 「とても良い」, tun muu 「たいへん悪い」
比較級	比較対象となる語-AAs (奪格) 形容詞語幹形	uuln-aas öndör {山-ABL 高い} 「山より高い」, dalaj-gaas gün {海-ABL 深い} 「海より深い」
最上級	①程度副詞 xamgijn / tujlyn 形容詞語幹形 ②形容詞語幹-AAs (奪格) / -YN (属格) 形容詞語幹形	xamg-ijn xünd {普遍-GEN 重い} 「一番重い」, erxm-ees erxem {貴重な-ABL 貴重な} 「何よりも貴重な」, ix-ijn ix {大きい-GEN 大きい} / ix-ees ix {大きい-ABL 大きい} 「何よりも大きい」

(清格尔泰 1991: 187 をもとに山田 2022 で示した表の一部に、下線、形態素分析、グロスを付したもの)

本稿では、形容詞特有の形態的な特徴を調べることを目的とする。そこで具体的には、弱程度及びこれと関連する事項について次節 2.2. で、強程度の①について次々節 2.3. で他の文献の記載も参照していく。比較級と最上級と呼ばれる表現については形態的な操作とは言えないので、考察の対象としない。

2.2. 弱程度

表 1 の弱程度には -wtAr, -xAn が含まれている。これらの要素について塩谷 (2007: 5, 43) は派生接辞であると見做している。Janhunen (2010: 119) もこの 2 つを機能的に類似するものとした上で、生産的であるが語彙化されていて出現には制限があるとしている。

-wtAr という接辞について塩谷 (2007: 5) は「主として、1. 《色彩語》 2. 《人・物の外観・外形》等を表す形容詞に接続し、《その性質の程度を弱める》ことを意味する形容詞を形成する」としている。さらにこの -wtAr とほぼ同じ機能をもつ -dUU という派生接辞があるという (ibid. 15)。-dUU は動詞に -gAr が付されて派生した形容詞に付されることが多く、この点において -wtAr と異なるという (ibid. 16)。Kullmann & Tserenpil (2015: 218-219) も向井 (2006) も -wtAr と -dUU を同じ項目の中で扱っており、類似の要素であると見做しているようである。Kullmann & Tserenpil (ibid.) は -wtAr が (-dUU と異なり) 比較の意味を有しているとしている。向井 (2006) は接辞 -wtAr が付された語に -dUU が付され

⁴ この表における「語幹」(清格尔泰 (1991: 187) では詞干) という用語が指すところには注意を要する。例の欄に挙げられた ulaan 「赤い」と ulaa-wtar 「比較的赤い」をとってみても、その「語幹」には ulaan, ulaa という 2 つの形式の対立がある。一般に子音 /n/ で終わる語に -wtAr, -xAn などの接辞が付されると末尾の n が脱落する、と説明されるが、/n/ のない形 (cf. ulaa) こそが語幹であるとするべきか否かについては判断しがたい。ここでは清格尔泰 (1991) に従って両形式とも「語幹」であるとしておく。

ることがあることを示している。なお、-wtAr が付されるとき語幹末尾に子音 /n/ があれば脱落するが、-dUU が付される場合には脱落しない。

-xAn という接辞がどのような語に付されうるかについて、山田 (2022) は形容詞的な意味を有する語を 219 語選出し、コーパスを用いて検証した。ここでは「大小の対になる形容詞」の「小さい意味」を表す語に-xAn が付されやすいこと、また「同じ」「穏やか」などの意味を有する語にも付されやすいことなどを示した。

2.3. 強程度

表 1 の強程度には①部分重複を伴う表現と②程度副詞を伴う表現が挙げられている。このうち、程度副詞を付加するものは屈折範疇とは言い難いと考え、本稿での分析対象としない。

部分重複を含む表現は、語幹の語頭モーラを重複させて、重複部分の末尾に子音 /w/ を付したものを語幹に先行させる形を取る (例 1, 重複部分に下線)。ここでいう語頭モーラとは、短母音 1 つと先行する語頭の子音 0~1 つから成るもので、語幹の最初に現れる母音が長母音や二重母音⁵である場合にはそれぞれに対応する短母音 (aa/aj>a, oo/oj>o, uu/uj>u, ee>e, öö>ö, üü/üj>ü, ij>i) が重複部分に現れる。

- (1) xaranxuj > xaw xaranxuj
暗い 真っ暗だ
- ulaan > uw ulaan
赤い 真っ赤だ
- xüjten > xüw xüjten
冷たい とても冷たい
- böörönxij > böw böörönxij
丸い まん丸い

こうした表現について、Janhunen (2010: 120 ‘alliterative reduplication’) は色やその他の「質」(quality) を表す語に、Kullmann & Tserenpil (2015: 219 ‘Intensifying Adword Suffix “-w”’) は色、サイズ、温度を表す語に主に用いられるとしている。

2.4. 先行研究の問題点

表 1 で示したような比較の範疇について、清格尔泰 (1991: 184) は性質形容詞の一般的な特徴として紹介している。清格尔泰 (ibid. 183) は形容詞を性質形容詞と関係形容詞に大別し、後者について他の語から派生し形容詞化の程度が低い一部の語を指すとしている。このことから、比較の範疇に含まれる「弱程度」「強程度」は形容詞的な意味の語の多くに適用されうるものであるとも読める。

他方、弱程度の -wtAr, -dUU については色や外見を表す語に、強程度については色や質、ないしはサイズや温度を表す語に使用されることが多いとの記述も他の文献には見られる。山田 (2022) では弱程度の -xAn が使われうる語に意味的な偏りがあることを示したが、その他の -wtAr や -dUU 及び強程度についても類似の偏りがあるのではないかと予測される。

どの文献においても若干の例を示すのみであり、そもそも形容詞が表す「質」などといったものについての説明もない。そこで、具体的にどの語にこれらの表現が使用されるのか検証する必要がある。

⁵ j は ü に対応するラテン文字として用いるもので、常に他の母音字の後ろに用いられ二重母音を成すことを表すものである。

3. 調査方法

本稿では山田 (2022) で $-xAn$ に対して行ったのと同様に, 弱程度の接辞 $-wtAr$, $-dUU$ がどのような語に付くのか, 強程度の表現がどのような語について使用されるのかを検証していく。

山田 (2022) では Dixon (2010) における形容詞の意味分類を参考にして, 形容詞的な意味だと考えられる語を 219 語リストアップした。その上で, それぞれの語に $-xAn$ を付した語形がライプツィヒ・コーパスから得られるのかを確認するという手法を取った。ライプツィヒ・コーパスには複数のモンゴル語コーパスが含まれるが, このうち 2011 年のウェブ上のニュース記事を収集した “*newscrawl_2011*” (Leipzig Corpora Collection: https://corpora.uni-leipzig.de/en?corpusId=mon-cyr_newscrawl_2011) がトークン数 5,241,858 で最も大きい収録トークン数を有するので, これを利用した。しかし今回の調査対象となる項目を同様に検索してみると, 得られる検索結果がとても少なかったため, 補足的にジンガン・コーパス (ジンガン (2010) で使用されたコーパスをジンガン氏のご厚意で使わせていただいているもの。ウェブ上のニュース記事の他, 文学作品なども収録されている。トークン数 1,782,127。詳細は山田 (2022) を参照のこと) も用いることとした。

調査では, まず山田 (2022) で選出した形容詞 219 語に必要な追加⁶を行い, 234 語について $-wtAr$, $-dUU$ を付した形をライプツィヒ・コーパスで調べ, 検出数を記録した。ライプツィヒ・コーパス (*mon-cyr_newscrawl_2011*) では, 個々の語形については検索することができるが, 接辞など語の一部やスペースを挟む複数のトークンから成る表現について検索することはできない。 $-wtAr$ と $-dUU$ が同時に付された語形も存在し (向井 2006), さらに $-xAn$ の付された語形に $-wtAr$ が付される例や $-dUU$ が付された語形に $-xAn$ が付される例なども存在するが, いずれも頻度が低いので調査対象とせず, 調査の過程で偶然用例が得られたものについて補足として紹介するにとどめた。強程度については重複部分を検索語として, 検出された例文の中から手作業で用例数を数えた。

次いでジンガン・コーパスを用いて調べ, 上記のライプツィヒ・コーパスでの検索結果を補足した。 $-wtAr$, $-dUU$ については, これらで終わる語を出現頻度順にリストアップした。強程度については, 重複部分となる (子音字 0-1)+母音字 1つ+w という語形を含む用例を全て検出し, この重複部分とその右側の 1 語を辞書配列でソートし, 手作業で強程度の表現となるものを選出した。なお, ジンガン・コーパスの検索にあたっては, AntConc (Anthony 2019) というコンコーダンスソフトを用いた。AntConc を用いることで正規表現を用いた検索が可能となる他, 検索結果を出現頻度の高い順にリストアップするなどの機能も用いることができる。

この調査ではあくまでコーパス検索によって得られる語形のみを対象とし, その意味についてはほとんど考慮していない。検索によって得られた用例数には同音異義語を多分に含むこともあるが, 意味によって選り分けるということをしていない。このことによって問題が生じる語形については, 4. で実際にその語形を扱う際に言及することとする。

とくに強程度に関し, 本稿で扱う部分重複表現であると見做すかどうか判断に迷うものも見られた。例えば *ew eye* 「和睦」, *zaw zaj* 「暇」などは頻度の高い組み合わせであり, (形容詞に通ずるような) 抽象的な意味を有する熟語であり, かつここで扱う部分重複と見うる語形をしている。ここではそれぞれ *ew*, *zaw* といった語が独立語としても使用できること, モンゴル語において類語 (意味的に近似する語だが, しばしば語形にも類似性のある語) を組み合わせて 1 つの表現と成す熟語表現がよく用いられるという事実などから, ここで扱う部分重複表現ではないと判断した。以下, 個々の事例については当該

⁶ 調査の過程で, とくに今回の調査対象となる諸表現と共起しやすいものから追加したものもあれば, 典型的な形容詞として挙げるべきであったが山田 (2022) で検討もされなかったものも含む。いずれもあくまで意味的に形容詞らしいと筆者が判断したものである。具体的には 4. で個別に取り上げる。

の語を扱う際に判断を述べることとする。

4. 調査結果

4.1. 概要

弱程度・強程度の各形式について検索したところ、コーパスから得られた用例数は全体として大きくなかった。そこで以下では 4.2. において山田 (2022) で調査した $-xAn$ の検出数と比較しながら本調査の結果を概観する。4.3. ではジガン・コーパスの調査によって得られた、4.2. に含まれない調査結果も含めて弱程度・強程度の各形式の使用実態について分析し、考察する。

4.2. の調査結果は基本的に山田 (2022) における形容詞の分類に基づいて小節を立て、それぞれ以下の表 2 のような形式でこれを示す。ただし「物理特性タイプ」については、含まれる語が増えたため「触覚で知りうるもの」「触覚以外の感覚によるもの」に分けた。また当該形式が得られなかったタイプの一部はまとめて 4.2.12. で記すこととしたため、提示の順番も山田 (2022) と異なる箇所がある。

表 2. 調査結果サンプル

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~				
小さい	baga	3186	88	2.69	15	4				
	jijig	1146	240	17.32		4				
白い	cagaan	1583	11	0.69		1	36	15	1	
黒い	xar	2190	2	0.09		1		5	1	1

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

表 2 の①語義は山田 (2022) より凡その形容詞的な意味を示したものである。中には多義語も含まれるが、恣意で一意に決めた。

②原形は $-xAn$, $-wtAr$, $-dUU$ といった接辞が付されない形式を示した。③はそのライブツイヒ・コーパスにおける出現数である。山田 (2022) で扱われていない語で、今回新しく加えた語については、この②のセルを黒く塗って示す。

④ $-xAn$ は、②原形で示した語に $-xAn$ を付して検索して得られた検出数である。⑤は、山田 (2022) の計算方法を改め、④の数値を③④の合計数で割って百分率で示したものである。従って山田 (2022) で示した数値と異なり、最大数は 100 ($-xAn$ がついた語形しか見られないもの) であり、数値が 50 以上ならば $-xAn$ のついた語形の方が、つかない語形よりも多い語であることを示す。こうした数値が 50 以上のものは、セルを■赤く塗った。数値が 50 未満のものうち、4 以上のものはセルを■茶色に塗った。数値が 0 であったものを除いてこのパーセンテージの中央値を算出すると 3.87 であったことから、近似の整数を基準点とした。4 未満で 0 より多い数値の場合は■黄緑、0 の場合は塗りつぶし無しとした。

⑥ $-wtAr$, ⑦ $-dUU$, ⑧ RED~ はそれぞれ弱程度・強程度に関する本調査の結果を示すものである。⑥⑦はそれぞれ左右 2 つのセルがあるが、左がライブツイヒ・コーパスからの検出数、右がジガン・コーパスからの検出数を示している。⑧は部分重複していたかつ語幹が $-xAn$ を伴う語形も得られたことから、4 つのセルに分けて示した。左から順にライブツイヒ・コーパスで $-xAn$ を伴わない語形、伴う語形、ジガン・コーパスで $-xAn$ を伴わない語形、伴う語形である。なお、⑥~⑧の結果は数値がいずれも小さいことから、0 は空欄で示し、かつ百分率は示さなかった。空欄でない、1 つ以上の例が見られたものはセルを■薄黄色で塗った。

また⑥~⑧に該当する、本調査における検出数が全て 0 である意味タイプについては①~⑤のみを簡

略に提示するのみに留める.

4.2. 形容詞の意味別に分類した調査結果

4.2.1. 規模タイプの形容詞

規模タイプの形容詞は *günzgj* 「深い」という語を新たに加えて 19 語を調査した.

表 3. 規模タイプの形容詞 19 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
大きい	<i>ix</i>	15198	762	4.77		
	<i>tom</i>	4637	24	0.51		
小さい	<i>baga</i>	3186	88	2.69	15	4
	<i>ǰǰig</i>	1146	240	17.32		4
	<i>byacxan</i>		329	100.		
	<i>öčüüxen</i>		214	100.		
広い	<i>örgön</i>	1527	0	0.		
	<i>uudam</i>	120	0	0.		
	<i>uuǰim</i>	40	1	2.44		
狭い	<i>yawcuu</i>	73	1	1.35		
	<i>dawčuu</i>	21	6	22.22		
長い	<i>urt</i>	863	3	0.35	4	2
短い	<i>bogino</i>	426	47	9.94	1	2
太い	<i>büdüün</i>	89	2	2.20	1	4
細い	<i>narijn</i>	1743	40	2.24		1
厚い	<i>zuzaan</i>	135	1	0.74	1	1
薄い	<i>nimgen</i>	80	3	3.61	1	2
深い	<i>gün</i>	508	0	0.		
	<i>günzgj</i>	103	0	0.		1

コーパスからは *-wtAr* について若干の用例が得られたが, *-dUU* 及び強程度については *günzgj* 「深い」という語にそれぞれ 1 例ずつ得られた他は検出されなかった. このことから, これらの形式が *-xAn* に比して使用頻度の低いものであることが分かるが, 一方でこの表 3 に示された結果を以て「これらの形容詞には *-dUU* や強程度がない」と断ずることはできない点に注意されたい. 表中で検出数が 0 であるものでも, *google* 検索を用いて調べてみると少量ながら使用されている用例も得られることを付言しておく. この点については以下同様であり, 今後の詳細な調査が課題となる.

山田 (2022) では, 規模タイプに見られるような「大小の対になる形容詞」において, 「小さい意味」を表す方に *-xAn* が付されやすいとした (本稿における色分けを基準にすると, 必ずしもそのような対応になっているわけではないことも分かる). *-wtAr* が *baga* 「小さい」に付く例が見られることは, *-wtAr* も *-xAn* と似た分布を見せることを伺わせるが, 「長い・短い」「太い・細い」の対ではそのような対応を成していない.

規模タイプが「外観」を表すものだとすると, *-wtAr* が現れやすいことは先行研究の記述に合っている. 他方, 「サイズ」を表すのに強程度の用例が得られなかったことは, 先行研究の記述に合わない.

4.2.2. 経時タイプの形容詞

経時タイプの形容詞は山田 (2022) と同じ 8 語を調査した。

表 4. 経時タイプの形容詞 8 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
新しい	šine	4567	184	3.87		3 1 8
古い	xuučín	852	0	0.	3 8	
若い	zaluu	2170	106	4.66	3	
年少だ	balčir	63	5	7.35		
老いた	nastaj	2079	0	0.	3 4	
	xögšín	234	0	0.		
早い	ert	465	45	8.82		
遅い	oroj	758	17	2.19		

4.2.1. 規模タイプで見たのと同様に -wtAr は -xAn に見られる傾向と異なり、-xAn が付きにくいと考えられる xuučín「古い」や nastaj「老いた」に付される例が得られた。

強程度は šine「新しい」の -xAn がついた語形 šiw šinexen という形式が、-xAn のつかない語形よりも多く見られた。この点で、-xAn を「弱程度」と呼ぶのには用語上の矛盾があるように思われる。

ert「早い」、oroj「遅い」と比べて xuučín「古い」、zaluu「若い」、nastaj「老いた」は「人・物の外観」から感知できるので -wtAr が使えるのだ、と考えると先行研究の記述に合う。

4.2.3. 価値タイプの形容詞

価値タイプの形容詞は全部で 42 語ある。以下、「良し悪し・好き嫌い」(表 5) 25 語、「美醜・衛生」(表 6) 10 語、その他 (表 7) 7 語に分けて示す。概して、価値タイプに属する形容詞は弱程度・強程度の用例が少ない。

価値タイプの形容詞のうち「良し悪し・好き嫌い」については、新たに ašgüj「良い」、čuxal「大事だ」、onc, oncgoj「特別だ」、gol「主要だ」の 5 語を加えた 25 語を調査した。

表 5. 価値タイプ「良し悪し・好き嫌い」の形容詞 25 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
良い	sajn	5768	3634	38.65		
	oligtoj	132	23	14.84		
	ašgüj	22	0	0.		
悪い	muu	1946	43	2.16		
	taaruu	156	65	29.41		
面白い	sonin	1598	11	0.68		
	sonirxoltoj	608	0	0.		
つまらない	sonirxolgtij	49	0	0.		
妥当だ	zoxistoj	166	0	0.		1 1

(妥当だ)	toxiromjtoj	75	0	0.						
不当だ	zoxisgüj	56	0	0.						
快い	ayataj	127	79	38.35						
不快だ	ayagüj	47	0	0.						
好きだ	durtaj	829	0	0.						
	taalamjtaj	57	0	0.						
嫌いだ	durgüj	347	1	0.29						
愛する	xajrtaj	372	0	0.						
すごい	gajxamšigtaj	106	0	0.						
大事だ	čuxal	2176	0	0.				1		
特別だ	onc	588	0	0.						
	oncgoj	833	0	0.				1		
主要だ	gol	4221	0	0.		250	74			
変だ	jigtej	22	111	83.46						
	xačin	274	0	0.						
無意味だ	demij	219	0	0.						1

このタイプに属する語は, -xAn が付されるものも一部に限られる (sajn, oligtoj 「良い」, taaruu 「悪い」, ayataj 「快い」, jigtej 「変だ」, ただし sajn と sajxan は別の語彙であるとして他の例と同列に扱って良いのかは検討の余地がある) が, その他の弱程度・強程度についても用例が得られたのが一部に限られ (-dUU: čuxal 「大事だ」, oncgoj 「特別だ」, gol 「主要だ」, 強程度: zoxistoj 「妥当だ」, demij 「無意味だ」), かつ -xAn とは重ならない。

価値タイプのうち「美醜・衛生」については山田 (2022) と同様に 10 語を調査した。

表 6. 価値タイプ「美醜・衛生」の形容詞 10 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
美しい	goyo	505	6	1.17		
	üzesgelentej	57	0	0.		
汚い	muuxaj	350	0	0.		
	boxir	200	0	0.		
	buzar	66	0	0.		
	zawaan	39	0	0.	1	
芸術的だ	uran	2469	0	0.		
	urlag	500	0	0.		
清潔だ	cewer	748	75	9.11		1
	ariun	368	4	1.08		

「良し悪し・好き嫌い」と同様に, 弱程度・強程度とも用例が少ない。-xAn のついた用例の多い cewer 「清潔だ」は, 強程度においても cew cewerxen という -xAn のついた語形で現れた。価値タイプのその他の形容詞についても山田 (2022) と同様に 7 語を調査した。

表 7. 価値タイプその他の形容詞 7 語

語義	原形		-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~			
安い	xyamd	394	85	17.75						
値段が高い	ünetej	872	0	0.						
役立つ	tustaj	141	0	0.						
便利だ	ašigtaj	630	0	0.						
	awsaar	48	18	27.27						
	zoximjtoj	33	0	0.						
準備できた	belen	1208	11	0.90				1		

4.2.4. 色彩タイプの形容詞

xüren「褐色だ」と il「はっきりした」を加えた 24 語を調査した。

表 8. 色彩タイプの形容詞 24 語

語義	原形		-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~			
白い	cagaan	1583	11	0.69		1		36		15 1
黒い	xar	2190	2	0.09		1		5	1	1
赤い	ulaan	1056	8	0.75		1		4	1	2
青い	xöx	284	0	0.	1					1
	cenxer	238	4	1.65		1		3	1	8
黄色い	šar	702	2	0.28	2	5	1	2		1
緑色だ	nogoon	511	2	0.39	2	4		8		6
桃色／紫だ	yagaan	109	2	1.80		5	2	3		1
茶色だ	bor	321	1	0.31		1	3	1		2
褐色だ	xüren	152	0	0.		4		1		
明るい	gegeen	254	4	1.55						
	saruul	155	7	4.32				1		3 1
	gereltej	57	0	0.						
暗い	xaranxuj	146	0	0.				5		12
	büdeg	46	9	16.36			1			
澄んだ	tungalag	126	2	1.56				3		2
はっきりした	todorxoj	2907	0	0.				34		11
	tod	709	37	4.96				2	1	5 18
	il	993	15	1.49				3	1	8
鹿毛だ	xeer	212	0	0.						
栗毛だ	zeerd	34	0	0.						
まだらだ	alag	108	1	0.92						
	ereen	66	0	0.						
	cooxor	35	0	0.						

すでに弱程度・強程度いずれについても色彩を表す語に使われやすいとの指摘がある通り, 表中の「白い」～「褐色だ」の10語は程度の差こそあれ弱程度・強程度の表現との親和性があることが伺える. 強程度については「明るい」～「はっきりした」という明度を表す9語とも現れる. 馬の毛色を表す2語 *xeer*「鹿毛だ」, *zeerd*「栗毛だ」と模様を表す *alag, ereen, cooxor*「まだらだ」は弱程度・強程度の用例が得られなかった.

なお, 強程度の形容詞が名詞的に用いられる例も得られた. 次の例文(2)では *xaranxuj*「暗い」の重複した形式 *xaw xaranxuj* に与位格が付され「真っ暗なところで」の意味を成している.

(2) *Xarin yuu č xaragdaxgüj xaw xaranxujd türüünij züüd ürgeljillee.*

xarin yuu=č xaragd-x=güj xaw~xaranxuj-D türüün-IJ züüd ürgeljil-lee.
however what=ever to.see-FUT=NEG RED~dark-DAT previous-GEN dream to.continue-PST
「それでも, 何も見えない真っ暗闇でさっきの夢の続きを見た」(ライブツイヒ・コーパス⁷)

4.2.5. 物理特性タイプの形容詞

山田(2022)で物理特性タイプとして分類した29語を「触覚で知りうるもの」「触覚以外の感覚によるもの」に分けて提示する. まず表9では, このうち「触覚で知りうるもの」12語に, 新たに *büleen*「暖かい」を加えた13語を調査した結果を示す.

表9. 物理特性タイプ「触覚で知りうるもの」の形容詞13語

語義	原形		-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~			
固い	<i>xatuu</i>	1002	59	5.56		1				
軟らかい	<i>zöölön</i>	281	19	6.33	1					
	<i>uyan</i>	94	13	12.15						
重い	<i>xünd</i>	3643	64	1.73	25	6				
軽い	<i>xöngön</i>	363	11	2.94	5					
濡れた	<i>nojton</i>	79	0	0.						1
乾いた	<i>xuuraj</i>	179	0	0.	2			3		6
暑い/熱い	<i>xaluun</i>	710	22	3.01				5		
寒い/冷たい	<i>xüjten</i>	663	0	0.	1	1				2
暖かい	<i>dulaan</i>	451	69	13.27		2	1	1	1	1
	<i>urin</i>	63	3	4.55						
	<i>büleen</i>	44	4	8.33						1
涼しい	<i>serüün</i>	129	12	8.51	3	2				1

弱程度 *-wtAr* が付される用例が多く, また Kullmann & Tserenpil (2015) が述べた通り温度を表す形容詞に強程度が用いられやすいことも見て取れる.

xünd「重い」は *-wtAr* のついた形式が多く検出されたが, これは *xündewter gemtel*「重症 (*xünd gemtel* 重体 に及ばない傷病)」のような表現が用いられるためであろう. なお, 山田(2022)では看過されている.

⁷ ライブツイヒ・コーパス (*mon-cyr_newscrawl_2011*) で収集されたテキストには出典の表示があり, 全て *www.dailynews.mn* というサイトから抽出されたものであるらしいが, リンクは切れている.

るが、この xünd という語形は xün-d {人-DAT} と同形であり、ライブツイヒ・コーパスから得られた用例数にもこれが含まれてしまっている。原形の総数から xün-d {人-DAT} を排除すると、-xAn の出現数比で示された百分率のポイント数が xöngön 「軽い」を上回る可能性もある。

次に「触覚以外の感覚によるもの」となる 23 語を調査した。このうち ötgön 「濃い」、šingen 「薄い／液状だ」、celmeg 「晴天だ」、duugüj 「静かだ」、isgelen 「酸っぱい」、tüüxij 「生(なま)だ」は本調査において新たに加えたものである。duugüj 「静かだ」には duuguj, duugaj といった異綴もあり⁸、isgelen 「酸っぱい」には esgelen という異綴もあるが、いずれの形式も検索対象としている。また gašuum の語義は「苦い」と改めた。

表 10. 物理特性タイプ「触覚以外の感覚によるもの」の形容詞 23 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
空(から)だ	xooson	418	0	0.		7 5
	sul	386	28	6.76	3 3	
詰まった	düüren	582	0	0.		
	bitüü	171	21	10.94		
濃い	ötgön	71	0	0.		
薄い／液状だ	šingen	167	1	0.60	1 1	1
丸い	böörönxij	30	0	0.	4 1	2
四角い	dörwöljin	68	0	0.		2
平だ	tegš	385	12	3.02	1	2 1 1
	xawtgaj	44	0	0.		
まっすぐだ	šuluun	78	36	31.58		1 2
途切れた	tasarxaj	61	0	0.		
穴の開いた	coorxoj	53	0	0.		
晴天だ	celmeg	28	1	3.45		4
声が大い	čanga	260	10	3.70	1	
静かだ	čimeegüj	186	24	11.43		20 32
	sem	67	37	35.58		1
	duugüj	253	8	3.07		5 30 1
調和した	yaruu	804	6	0.74		
おいしい	amttaj	74	2	2.63		
苦い	gašuum	122	0	0.	3	1
酸っぱい	isgelen	7	0	0.	2	
生(なま)だ	tüüxij	511	1	0.20		1

強程度が使われる例が多く見られた。希薄さに関する xooson 「空(から)だ」、šingen 「薄い／液状だ」、形状に関する böörönxij 「丸い」、dörwöljin 「四角い」、tegš 「平だ」、šuluun 「まっすぐだ」、静けさに関する čimeegüj, sem, duugüj 「静かだ」など、下位により詳細な意味分類を設けることで使用傾向が見いだせるかもしれないが、この点については今後の課題である。celmeg 「晴天だ」は cewer 「清潔だ」(4.2.3.

⁸ 他に dugaj という語形もありうるが、本調査では検出されなかった。

表 6), tüüxij 「生だ」は šine 「新しい」(4.2.2. 表 4) と意味的に関係があるかもしれない。

ここでの結果には含まれないが, xow xoosrox というように強程度が動詞に現れる例が得られた。これは xooson 「空(から)だ」の重複した xow xooson が動詞派生の接辞 -r を伴って動詞化したものであると見られる。

(3) *xülcleer düüren bajsan setgel n'odoo xow xoosorč*, ...

xülcel-AAr düüren baj-sAn setgel=n' odoo xow~xoosor-č

apology-INS full to.be-PERF heart=3SG now RED~to.empty-SIM

「謝罪の気持ちでいっぱいだった心が, 今は空っぽになって…」(D_batbayar_cahilj_yawaa_goroos.txt⁹)

4.2.6. ヒトの性質タイプの形容詞

ヒトの性質タイプはいずれも山田 (2022) と同じ 66 語を調査した。以下, 「性格」(表 11) 22 語, 「健康状態・能力」(表 12) 20 語, 「感情」(表 13) 12 語, その他(表 14) 12 語に分けて示す。概して, ヒトの性質タイプについても価値タイプ(4.2.3) 同様, 本調査における弱程度・強程度が使用される例は少ない。

まず「性格」に関する 22 語を見る。šudarga 「真面目だ」という語には šudraga という異綴も含めて検索し直したため, 山田 (2022) で示された数字と異なっている。

表 11. ヒトの性質タイプ「性格」の形容詞 22 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
優しい	dotno	239	4	1.65		
	najrsag	105	1	0.94		
	najrtaj	26	0	0.		
付き合い良い	nöxörsög	44	0	0.		
穏やかだ	nomxon		40	100.		
	tomootoj	34	0	0.		
	namuun	11	28	71.79		
	dölgöön	21	4	16.00		
	daruu	56	73	56.59		
真面目だ	šudarga	1370	0	0.	1	
断固とした	ers	710	4	0.56		
勇敢だ	zorigtoj	141	2	1.40		
	zürxtej	27	0	0.		
細心だ	nyambaj	33	0	0.		
がさつだ	büdüüleg	133	0	0.	1	
	bolxi	30	0	0.	3	1
怠けた	zalxuu	34	0	0.		
横暴だ	bardam	98	6	5.77		
狂暴だ/激しい	dogšin	57	0	0.		

⁹ ジンガン・コーパスにおけるファイル名. Д. Батбаяр. 1981. Цахилж Яваа Гөрөөс という作品が出典であることを意味する。

粗暴だ	širüün	195	32	14.10						
残酷だ	xargis	113	0	0.						
	xercgij	48	0	0.						

-xAn は「穏やか」の意味を表す語につく傾向にあるが (山田 2022), その他の弱程度・強程度にはそうした傾向が見られない. -dUU が šudarga 「真面目だ」, бүдүүлэг, bolxi 「がさつだ」に付される例が見られたのみであった. なお, bolxi 「がさつだ」に -dUU が付された形式にさらに -xAn が付された bolxiduuxan という語形もライプツィヒ・コーパスで3例検出した.

次に「健康状態・能力」に関する20語を見る.

表 12. ヒトの性質タイプ「健康状態・能力」の形容詞 20 語

語義	原形		-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~		
健康だ	erüül	2288	0	0.				5	8
	sergelen	52	0	0.					
安寧だ	mend	539	0	0.					
丈夫だ	čijreg	35	0	0.					
強い	xüčtej	1030	3	0.29					
	xüčirxeg	201	0	0.					
弱い	emzeg	200	6	2.91					
	doroj	111	2	1.77					
	xüčgüj	32	0	0.					
太った	targan	77	0	0.					
痩せた	turanxaj	36	0	0.	3	2			
目が不自由だ	soxor	48	0	0.					
利口だ	uxaantaj	191	0	0.					
	mundag	165	0	0.					
	uxaalag	148	0	0.					
	cecen	78	0	0.					
愚かだ	teneg	192	1	0.52		1	1		
賢い	mergen	225	0	0.					
有能だ	čadwarlag	128	0	0.					
無能だ	čadwargüj	124	0	0.					

-xAn もあまり現れず、他の弱程度・強程度もあまり現れない. 弱程度は -wtAr が turanxaj 「痩せた」に、-dUU が teneg 「愚かだ」に、強程度は erüül 「健康だ」に用いられた例が得られた. teneg 「愚か」のみ、-xAn のついた例も -dUU のついた例も得られた.

「感情」の12語については、本調査における弱程度・強程度の用例が一切得られなかったため、-xAn のパーセンテージのみを示した. 表の配置の都合で順番を一部入れ替えてある. なお, töwögtej 「煩わしい」は tüwegtej という綴りの揺れる語形も含んだ数値になっている.

表 13. ヒトの性質タイプ「感情」の形容詞 12 語

語義	原形	-xAn	%	語義	原形	-xAn	%
幸せだ	ǰargaltaj	163	0	悲しい	gunigtaj	42	5
	aztaj	71	0		zowlontoj	30	0
嬉しい	bayartaj	409	0	寂しい	ujtgartaj	35	0
	taataj	373	0	煩わしい	tövögtej	134	0
	xögjiltej	322	1	快適だ	tuxtaj	95	8
残念だ	xaramsaltaj	262	0	tawtaj	35	0	0.

次にその他の形容詞 12 語を見る。

表 14. ヒトの性質タイプその他の形容詞 12 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
豊かだ	bayan	471	0			
貧しい	yaduu	565	14	2	1	
忙しい	ajiltaj	363	0			
	zawgüj	178	0			
	yaaruu	29	4			
せわしい	yaaraltaj	417	0			
かわいそうだ	xöörxij	228	0			
愛しい	xöörxön	176	100.			
	xongor	74	7			
	enxrij	34	1			
親しい	nyagt	135	0			
	ewtej	58	34			

ここでは -xAn が付きうる例も多いが、その他の弱程度・強程度は yaduu 「貧しい」につく -wtAr のみ得られた。

4.2.7. 同異タイプの形容詞

山田 (2022) と同じ 9 語を調査した。

表 15. 同異タイプの形容詞 9 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
同じだ	adil	1322	487	26.92	2	
	ijil	414	55	11.73	1	1
	tencüü	127	21	14.19		
異なる	öör	5000	0			
	busad	2835	0			

(異なる)	yalgaataj	223	0	0.							
	ondoo	142	0	0.							
	adilgüj	62	0	0.							
似ている	töstej	233	0	0.							

ここでは、-xAn の出現が「同じだ」に偏ると並行的に、弱程度・強程度も adil, ijil 「同じだ」に偏っている。

4.2.8. 数量タイプの形容詞

山田 (2022) の 7 語に bütén 「全てだ」, xagas 「半分だ」を加えた 9 語を調査した。

表 16. 数量タイプの形容詞 9 語

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
多い	olon	14090	0	0.		
	baaxan		472	100.		
	ilüü	3218	0	0.		
少ない	jaaxan		767	100.		
	cöön	574	340	37.20	5	6
	dutuu	385	1	0.26		1
珍しい	xowor	530	0	0.		
全てだ	bütén	819	0	0.		2
半分だ	xagas	606	0	0.		

表 3 で бага 「小さい」に -wtAr が付された用例が複数見いだせたように、ここでは cöön 「少ない」という語に -wtAr の用例が見られる。両語の意味の類似を考えると、-wtAr の使用条件が語幹の意味的なもので決まる可能性を示唆するかに見える。

程度の幅を有さなそうな bütén 「全てだ」(「少し全て」「とても全て」などとは言えなさそう)にも強程度の例が現れるところが興味深い¹⁰。

4.2.9. 位置タイプの形容詞

山田 (2022) と同様の 6 例を調査した。なお、山田 (2022) でも言及されているが、nam 「低い」という語には同音異義語があるため、-xAn の出現率が実際より少なく算出されてしまっている。

表 17. 位置タイプの形容詞 6 例.

語義	原形	-xAn	%	-wtAr	-dUU	RED~
遠い	xol	537	17	3.07		
近い	ojr	656	336	33.87		
高い	öndör	3398	0	0.		
低い	nam	3439	62	1.77	4	2

¹⁰ この点について、注 12 で改めて触れる。

横だ	xöndlön	55	0	0.				1			
縦だ	bosoo	89	0	0.							

nam「低い」には弱程度の3形式 -xAn, -wtAr, -dUU のいずれも付された用例が得られる。

4.2.10. 速度, 難易, 評価, その他のタイプの形容詞

ここでは扱う語数が少なく, またいずれも弱程度・強程度の用例が一切得られなかった4つのタイプをまとめて扱う。速度タイプ, 難易タイプ, 評価タイプはそれぞれ4語ずつ, その他は3語含まれている。難易タイプ(表19)は表の配置の都合で順番を一部入れ替えてある。

表 18. 速度タイプの形容詞 4 語

語義	原形	-xAn	%	語義	原形	-xAn	%		
速い	xurdan	718	27	3.62	遅い	udaan	713	0	0.
	türgen	340	6	1.73		aajim	23	2	8.00

表 19. 難易タイプの形容詞 4 語

語義	原形	-xAn	%	語義	原形	-xAn	%		
易しい	amar	494	267	35.09	簡潔だ	towč	192	88	31.43
	xyalbar	152	41	21.24	難しい	xecüü	1065	36	3.27

表 20. 評価タイプの形容詞 4 語

語義	原形	-xAn	%	語義	原形	-xAn	%		
正しい	zöw	2177	2133	49.49	間違っている	buruu	1347	0	0.
	ünen	1798	0	0.	嘘だ	xudal	310	0	0.

表 21. その他のタイプの形容詞 3 語

語義	原形	-xAn	%	語義	原形	-xAn	%		
火がある	galt	445	0	0.	定期的だ	togtmol	238	0	0.
馬がある	mor't	24	0	0.					

評価タイプとその他のタイプでは -xAn の用例も少ないが, 難易タイプでは -xAn の用例数が多いことから -xAn と他の弱程度の出現が必ずしも連関しないことが伺える。

なお, zöw「正しい」に関しては, ライブツィヒ・コーパスでの検索によって zöw zöw という用例が得られたことを付記しておく。これは本調査で扱う強程度の重複のルールに従った部分重複の形式であると同時に, 全体重複の形もしている。この表現は会話における相槌として, 話し手の発言を肯定する「そうだ, その通りだ」という意味合いで, 話し言葉でよく用いられるものである(4)。

- (4) *Yörönxij sajd Londongoos ajj AJLČLALAA ZOGSOOLOO “Zöw zöw, Yörönxij sajdyn ene šijdwer tun zöw.*
yörönxij sajd London-AAs aj-ĵ ajlčlal-AA zogsoo-loo “Zöw zöw, yörönxij sajd-IJn
general minister London-ABL to.fear-SIM visit-REF to.stop-PST ??? general minister-GEN

ene šjdwer tun zōw.
this decision very right.

「総理大臣はロンドンを恐れて訪問を取りやめた。そうだそうだ、総理の決定は本当に正しい。」

(ライブツイヒ・コーパス)

ここでは、当該の表現についてもつばら間投詞的に用いられるものであることから、単なる全体重複であると見て、強程度の例とは見做さなかった。しかし綴られた語形のみからはこれを部分重複と見るべきか全体重複と見るべきか十分な根拠があるわけではない。表5によると zoxistoj「妥当だ」にも強程度の例があることから、zōw「正しい」が意味的に強程度を取る可能性はあると見ることができる。今後は、実際の発話における音調なども分析することで、明確な判断基準を検討する必要がある。

4.3. それぞれの形式についての考察

4.3.1. -wtAr

清格尔泰 (1991) は -wtAr について、-xAn と同一の「弱程度」という範疇として扱っている。Janhunen (2010: 119) も -xAn について -wtAr ととてもよく似た機能を表すものとしている。Kullmann & Tserenpil (2015: 218) も両形式を「指小辞」(diminutive) と呼んでいるが、-xAn は指小形・愛称形を成すもので語幹の意味をほとんど変化させないものであり、-wtAr は主に色、サイズについて主として用いられると記載するなど、両形式が異なる意味や機能を有することを示唆している。なお、色、サイズに使用されるという指摘は、4.2.1. 表3. の規模タイプ、4.2.4. 表8. の色彩タイプを見る限り部分的に正しいことが見て取れる。

-wtAr が -xAn と類似の機能を有するとすると、両形式は同じような意味の形容詞に付される可能性や、逆に相補的に分布する可能性があると思われる。しかし4.2.の調査結果を見る限り、相補分布はしていないし、全く同じ形容詞に使われるという可能性も低い。

-wtAr と -xAn の使用条件が関係あるか否かを判断するために、-wtAr を付した語形も -xAn を付した語形もいずれも見出せる語と、いずれも見出せない語を以下の表22.に示す。具体的には -xAn の出現数比が4%以上の(4.2.で■茶色■赤となる)語のうち、1例でも -wtAr の例が見いだせるものは「-wtAr と-xAn のいずれも付された例がある」とした。この列に含まれる語には、-wtAr の出現数(2つのコーパスの合計)を括弧で示した。同様に-xAn の出現数が0である語のうち、-wtAr も1つも現れないものを「-wtAr と-xAn のいずれも付された例がない」として表にまとめた。

表22. -wtAr と-xAn で共通する語

	-wtAr と-xAn のいずれも付された例が	
	ある	ない
規模タイプ	ǰǰig (4), bogino (3)	örgön, uudam, gün, gūnzgij
経時タイプ	zaluu (3)	xögšin
価値タイプ		ašgūj, sonirxoltoj, sonirxolgūj ... 計27語
色彩タイプ		gereltej, xaraxuj, todorxoj ... 計8語
物理特性タイプ	xatuu (1), zöölön (1), serüün (5), sul (6)	nojton, xooson, düüren, ötgön ... 計11語
ヒトの性質タイプ		najrtaj, nöxörsög, tomootoj ... 計39語
同異タイプ	adil (2), ijil (1)	öör, busad, yalgaataj, ondoo ... 計6語
数量タイプ	cöön (11)	olon, ilüü, xowor, büten, xagas

位置タイプ		öndör, xöndlön, bosoo
速度タイプ		udaan
評価タイプ		ünen, buruu, xudal
その他のタイプ		galt, mor't, togtmol

表 22 から, 規模タイプや物理特性タイプ, 同異タイプには -wtAr も-xAn も現れやすいことが伺える。いずれの形式も現れなかった語は多いが, これは調査対象としたコーパスサイズが小さいことでそもそも用例を十分に得ることができなかつただけであるとも解釈しうる。

次に, 逆のパターンとして -wtAr と -xAn の出現実態が共通しない語を表 23 にまとめる。ここでは, -xAn が 0% だが -wtAr が 1 つ以上現れたもの (左) と -xAn が 4%以上だが -wtAr が 1 つも現れないもの (右) を示す。表 22 同様, -wtAr が現れる語については括弧内に 2 コーパスからの出現数合計を示す。-xAn の出現数比率が 100%である語については括弧を付した。

表 23. -wtAr と-xAn で共通しない語

	-xAn は出ないのに -wtAr が出る	-xAn はよく出るのに -wtAr が出ない
規模タイプ		ix, (byacxan, öčüüixen,) dawčuu
経時タイプ	xuučin (11), nastaj (7)	balčir, ert
価値タイプ		sajñ, oligtoj, taaruu, ayaguj, jigtej ... 計 8 語
色彩タイプ	xöx (1), xüren (4)	saruul, büdeg, tod
物理特性タイプ	xuuraj (2), xüjten (2)	uyan, urin, büleen, bitüü, šuluun, ... 計 7 語
ヒトの性質タイプ	turanxaj (5)	nomxon, namuun, dölgöön, daruu ... 計 13 語
同異タイプ		tencüü
数量タイプ		(baaxan, jaaxan)
位置タイプ		ojr
速度タイプ		aajim
難易タイプ		amar, xyalbar, towč
評価タイプ		zöw

やはり -wtAr の出ないパターンが多く埋まったが, 表 22 と同様に検出数が少ないことが原因であろう。他方, -wtAr が出るパターンからは「-xAn の場合と異なり, -wtAr は色彩タイプの形容詞につきやすい」と言える。その他も語が少ないが, -wtAr が好む形容詞的意味を反映している可能性がある。

表 22 と表 23 から, -wtAr と -xAn の分布は全く同じとも言えないし, 全く異なるとも言えないことが見て取れる。このことは, 両接辞の意味や機能が互いに独立していることを意味するものではないだろうか。今後, より詳細な意味記述をしていく必要がある。

さらに, ジンガン・コーパスで -wtAr を伴うことの多い形容詞¹¹を調べると, 次のような語が得られる (表 24)。4.2. の調査で扱っていない形容詞については下線網掛けを付した。

¹¹ 実際には -wtAr で終わる語全てを検索しているので, dewter 「ノート」のような語を手作業で排除している。-wtAr で終わる全ての語のうち最も出現数が多い語は ajxawtar 「恐るべき」であるが, この語は aj-x という動詞の形動詞形に -wtAr が付いているような語形をしている点が興味深い。他にも動詞語幹のような語根に -wtAr が付いた例として ičgewter 「恥ずかしい」がある。また, saya 「ついさっき」のような時間副詞に -wtAr が付いた例も多数あるが, ここでは排除している。

表 24. -wtAr の付きやすい形容詞 (ジンガン・コーパス)

出現数	-wtAr が付きやすい形容詞
8	xuučin 「古い」 経時
6	xünd 「重い」 物理特性, cöön 「少ない」 数量
5	šar 「黄色い」 色彩, yagaan 「桃色／紫だ」 色彩
4	baga 「小さい」 規模, бүдүүн 「太い」 規模, nam-xan < nam 「低い」 位置, nastaj 「老いた」 経時, nogoon 「緑色だ」 色彩, <u>nyaluun 「甘ったるい」 物理特性</u> , xüren 「褐色だ」 色彩
3	gašuun 「苦い」 物理特性, jĭjig 「小さい」 規模, zaluu 「若い」 経時, sul 「空(から)だ」 物理特性
2	bogino 「短い」 規模, <u>gonzgoj 「楕円の」 物理特性</u> , dulaan 「暖かい」 物理特性, nimgen 「薄い」 規模, serüün 「涼しい」 物理特性, turanxaj 「痩せた」 ヒトの性質, urt 「長い」 規模, <u>šaranguj 「黄色っぽい」 色彩</u>
1	bor 「茶色い」 色彩, dutuu 「少ない」 数量, zuzaan 「厚い」 規模, ijil 「同じだ」 同異, <u>majga 「ガニ股だ」 ヒトの性質</u> , narijn 「細い」 規模, ulaan 「赤い」 色彩, xar 「黒」 色彩, xatuu 「固い」 物理特性, xüjten 「寒い／冷たい」 物理特性, cagaan 「白い」 色彩, čanga 「声大きい」 物理特性, yaduu 「貧しい」 ヒトの性質

表 24 のジンガン・コーパスにおける出現実態も含め、まとめると次のようなことが言える。

-wtAr は従来言われていたように、色彩タイプの形容詞に付されることが多いほか、規模タイプのよ
うな「人・物の外観・外形」を表す形容詞の一部にも付される。-xAn と共通して「小さい」「少ない」
という意味の語 бага, cöön や「同じ」という意味の形容詞にも付く一方で、-xAn と異なり「大小の対
を成す形容詞」の「小さい意味」を表す語に偏るわけではない。

4.3.2. -dUU

-dUU は清格尔泰 (1991) で扱われていないが, Kullmann & Tserenpil (2015) や向井 (2006) はこれらを
-wtAr と同じ項目の中で扱い, 塩谷 (2007) でも -wtAr とほぼ同じ機能を持つとしている。しかしコー
パスからの出現数だけを見ても、-wtAr よりさらに頻度の低いものであることが分かる。

次の表 25 で、-dUU の出現するものだけに注目して一覧する。他の弱程度の用例も得られたものにつ
いてはセルを塗りつぶした。

表 25. -dUU を伴いうる形容詞

タイプ	語義	原形	-xAn	-wtAr	-dUU
規模	深い	günzgj			1
価値	大事だ	čuxal			1
	特別だ	oncgoj			1
	中央だ	gol			324
	汚い	zawaan			1
色彩	青い	cenxer		4	1
	黄色い	šar		2	7
	桃色／紫だ	yagaan		2	5

	茶色だ	bor	1	1	3
	褐色だ	büdeg	9		1
物理特性	暖かい	dulaan	69	2	2
	丸い	böörönxij			5
	酸っぱい	isgelen			2
ヒトの性質	真面目だ	šudarga			1
	がさつだ	büdüüleg			1
		bolxi			4
	愚かだ	teneg	1		2
同異	同じだ	ijil	55	1	2
位置	低い	nam	62	4	4
	横だ	xöndlön			1

表 25 から見て取れる事実としては、色彩と「同じだ」については -xAn, -wtAr と -dUU も共通して共起しやすい点である。また、色彩と「同じだ」という分かりやすい語を除けば (dulaan「暖かい」, teneg「愚かだ」, nam「(背が)低い」という例外が説明しにくいのが), -xAn や -wtAr が現れない語に -dUU が相補分布的に現れやすそうであるところも特徴的だ。

これについてもジンガン・コーパスで検索を試みると、ランキングの上位には golduu < gol「主要だ」74 件のほか、zajduu「距離が離れている」 < zaj「距離」19 例、ayaduu「穏やかだ」 < aya「メロディー、状態」4 例、ganduu「少し早魘している」 < gan「早魘」2 例などがあるが、これらはもともになった語が (モンゴル語学習者としての筆者の知識においては) 名詞的な意味の語がもともなった派生であるように見える。それらの下には isgelandüü < isgelen「酸っぱい」という形容詞らしい例があり、maxlagduu < maxlag「肉付きの良い」, monxorduu < monxor「鉤鼻だ」, najramduu < najram「友情」, xajngaduu < xajnga「不注意だ」と続く。maxlag, monxor, xajnga といった語は 4.2. の形容詞リストには含まれていない。また塩谷 (2007) が指摘する -gAr を含む派生形容詞の用例は得られなかった。

これらから察するに、-dUU は「弱程度」(程度の意味を弱める機能) の意味合いや、色彩・同異タイプの形容詞に付されるという点においては -wtAr と通ずる部分もある。しかし典型的に -dUU が付されやすい形容詞は語彙的に決まっていて、頻度も高くない。

4.3.3. 部分重複による強程度

強程度も、これまで見てきた弱程度と同様に、使える形容詞に偏りがありそうである。一方で検索によって得られた件数が少ないことから、強程度が使えない条件については容易に判断できない。

弱程度と共通する点として、色彩と「同じ」や物理特性タイプで使用できるケースが多い。色彩に関しては弱程度と異なり、明暗や「はっきりした」という意味の形容詞とも使用できる。物理特性タイプでは、とくに温度に関する形容詞と使用される用例が得られた。

この強程度の表現は、規模(「深い」を除く)、経時(「新しい」を除く)、価値(若干の語を除く)、ヒトの特性タイプ(eruul「健康だ」を除く)、数量、位置、速度、難易、評価といったタイプの形容詞に現れる用例が得られなかった。

なお、この表現は一部典型的な形容詞と言えない語についても適用される例が得られたので提示しておく。次の例文 (5) では動詞に強程度の部分重複が起こっているように見える。

(5) *Dorj ijim muxar soxor yumyg olj sonsoj bajgaadaa gaw gajxna.*

Dorj ijim muxar soxor yum-IJg ol-j sons-j baj-AA-D-AA
PN such hornless blind thing-ACC to.get-SIM to.hear-SIM to.be-IMP-DAT-REF
gaw~gajx-nA

RED?~to.be.surprised-NPST

「ドルジはこんなに分からないことを聞いて、本当に驚いた」(D_namdag_cag_toriin_uimeen.txt)

この例は (4) で言及した *xow xoosrox* 「空っぽになる」とは異なり、もととなる形容詞的な語から派生した動詞ではない。「驚き」という感情の形容詞的な意味ゆえに強程度の表現が現れたものであろうか。ただし、4.2.6. 表 13 で見たように、感情を表す語に強程度の表現が現れた例は得られていない。

この他、*gaw gancaar* 「一人つきり」、*yaw yanzaar*, *xew xeweer* 「そのまま」といった名詞に造格を付した表現に強程度の部分重複が用いられる例も得た。*xew* は「型、様式」などの意味の語で、造格形の *xeweer* は「そのまま」という意味を表す表現である。*xew xew-eer* という綴りを見る限り全体重複であるとも判断しうが、*yaw yanzaar* という類義表現が存在することから察するに、部分重複の事例であると考えられる。

5. おわりに

本稿では山田 (2022) のモンゴル語の形容詞のリストを利用し、また補足し、清格尔泰 (1991) がモンゴル語の比較の範疇として取り上げている要素や表現についてコーパスから使用実態を調べた。

-wtAr は弱程度として -xAn と並び立つものであるが、-xAn が「大小の対になる形容詞」の「小さい意味」を好むのと較べると、使用される範囲は比較的広いように見える。-dUU も -wtAr に似た機能があるとされるが、使用されうる範囲はあまり重ならない。

弱程度も強程度も、色彩タイプ、物理特性タイプ、そして「同じ」という意味に偏って使用されるという特徴が確認された。これは塩谷 (2007) が -wtAr, -dUU について指摘する「人・物の外観・外形」という共通点からまとめあげることが可能などところもあるが、なお例外も多数ある。形容詞の程度に関与する表現であるので、意味に程度の幅がある語に使用が偏る¹²のは十分理解できることであるが、ヒトの性質タイプなど使われにくい意味タイプがある理由については現時点では十分な説明ができていない。

また弱程度の -xAn, -wtAr, -dUU, はそれぞれ 2 つ以上組み合わせる形容詞に付されることもある。さらに強程度は、語幹末尾に -xAn を付した語形とも共起しうるものである。表 1 で清格尔泰 (1991) が示したような比較の範疇は、弱程度・強程度だけを見てもパラダイムを成すものではないらしい。従って、意味や機能的にも必ずしも互いに対立するものではないものと思われる。今回の調査対象となった諸形式の具体的な機能の分析については今後の課題である。

¹² 仲本 (2014) ではこれを段階性と呼び、(おそらく英語や日本語について) 形容詞には段階性を有する段階形容詞の他に、段階性を有さない限界形容詞と極限形容詞があるとしている。本稿で扱ったモンゴル語の個々の形容詞的な語がそれぞれ段階性を有するのか否かは、やはり個々に検討を要する。仲本 (ibid.) によれば段階性を有さない語については、「ほとんど」「完全に」といった意味の近似値副詞によって修飾することが可能である。弱程度や強程度といった表現がこうした「ほとんど」「完全に」といった近似値の意味をも表すのだと解釈できるならば、4.2.8. 表 16 で扱った *büten* 「全てだ」のように段階性を有さなような語に強程度の表現が現れてもおかしくはないということになる。こうした点でも、諸形式の意味や機能に関する分析が必要である。

略号一覧

ABL: ablative 奪格 ACC: accusative 対格 DAT: dative-locative 与位格 FUT: future 未来(形動詞接辞)
GEN: genitive 属格 IMP: imperfect 不完了(形動詞接辞) INS: instrumental 造格 NEG: negative 否定辞
NSPT: non-past 非過去 (定動詞接辞) PERF: perfect 完了(形動詞接辞) PN: proper noun 固有名詞 PST:
past 過去 (定動詞接辞) RED: reduplication 重複 REF: reflexive 再帰 SG: singular 単数 SIM:
simultaneous 同時(副動詞接辞)

参考文献

- Anthony, Laurence. 2019. *AntConc 3.5.8 (Windows)*. [Computer Software]. Tokyo: Waseda University. Available from <http://www.laurenceanthony.net/software/antconc/> (2023/03/06 確認)
- Dixon, R. M. W. 2010. 12. The Adjective Class. *Basic Linguistic Theory*. Volume 2 Grammatical Topics. New York: Oxford University Press. 電子版.
- Janhunen, Juha A. 2012. *Mongolian*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- ジンガン. 2010. 「モンゴル語のモダリティ：コーパスに基づく記述的研究」東京外国語大学博士論文.
- Kullmann, Rita & Dandii-Yadam Tserenpil. 2015. *Mongolian Grammar*. 5th edition. Bern: Kullnom Verlag.
- 向井晋一. 2006. 「モンゴル語>文法モジュール>形容詞・副詞のさまざまな表現 解説」『東京外国語大学言語モジュール』 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/explanation/075.html> (2023/03/06 確認).
- 仲本康一郎. 2014. 「形容詞の段階性構造」『山梨大学教育人間科学学部紀要』. pp288-297.
- 清格尔泰. 1991. 『蒙古语语法』呼和浩特: 内蒙古人民出版社.
- 塩谷茂樹. 2007. 『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』大阪外国語大学学術研究双書 35: 大阪外国語大学研究推進室編集部門.
- 山田洋平. 2022. 「モンゴル語の形容詞につく接辞 -xAn」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第26号. pp1-23.

執筆者連絡先 : yamadabayar@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2022年12月11日